エンジョイ園芸

野菜

ゴボウ

入念に耕し土を軟らかく

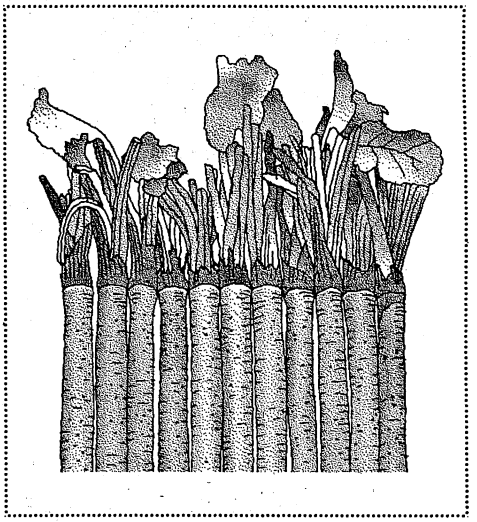
鮫島　國親

ゴボウは独特の香りと歯ざわりが好まれ、きんぴらゴボウや煮しめ、豚汁、あえ物などの食材として重宝されます。柔らかいうちはさっとゆでサラダ感覚で食べるのもおいしいです。ミネラル分が多く、低カロリーで食物繊維が多いヘルシー野菜です。冬には地上部が枯れ上がり、春に再び芽を出して生育し、やがて花が咲きます。今回は春まき栽培を紹介します。

発芽適温、生育適温ともに二〇―二五度で、耐暑性は強いです。耐寒性は部位で異なり、地下部はマイナス二〇度にも耐えますが、地上部は霜にあうと枯れます。耕土が深く、肥沃で排水の良い畑が適しています。酸性土壌や連作は嫌います。最低二年間は休栽し、キャベツ、ネギ、バレイショなど他の作物と輪作しましょう。

種まき予定の二、三カ月前に一平方㍍当たり苦土石灰百二十㌘、堆肥二―三㌔を畑全面に施し、二週間前に種まき位置を中心にスコップ等で幅二十㌢、深さ一㍍程の溝を掘り、土を軟らかくして埋め戻します。

一週間前には化学肥料百㌘（三要素15％の場合）を目安として地表全面に施して入念に耕耘し、土をよく砕きます。未熟堆肥の施用や土塊、乾燥、古種の使用は岐根の原因となります。



種まき時期は、無マルチ栽培で三月下旬、マルチ栽培で三月上旬ごろです。霜による幼根の浮き上がりや断根の危険性の少なくなる時期が望ましいです。種まきの前日までに深耕した部分を中心に高さ二十㌢程度のうねを立て、十分にかん水しておきます。

栽植密度は、うね幅六十㌢、株間十―十五㌢、一条とし、一穴に二―四粒ずつまき、深さ一―二㌢になるよう薄く覆土して軽く押さえます。なお、種子を一昼夜水に漬けてまくと発芽がよくそろいます。

間引きは本葉一枚時と三枚時に行います。また、生育初期はこまめに除草しましょう。発芽二カ月後および梅雨明け後に追肥（一回当たり二十㌘）し、同時に中耕・土寄せを行います。収穫期は無マルチ栽培で八―二月、マルチ栽培で七―八月です。

（鹿児島県農業開発総合センター副所長）

くらし

夕焼遊園

平成２１年（２００９）１月１５日（木）／南日本新聞